広報 かじき

全ご家庭に，もれなく配布

第179号

46. 2. 1 発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課文書係

印刷　吉屋印刷所

二月のしおり

蒼天に　打ち込む水や

出ぞめ式　牧笛郎

恒例の町消防団の出ぞめ式も、ことしは晴天にめぐまれ、新年最初の演習を町民に披ろうしました

二月は俗に逃げる月といわれ、いつの間にか過ぎてしまうもの。ご家庭でも、お子さんの入園や進学、卒業、就職へと、つい追われがちです。早め早めに準備を。

カゼの本格的な流行期、カゼはだれでも簡単にかかる病気です。だが、カゼの予防も心がけ一つ、からだの抵抗力を弱めないように

月末から春の火災予防運動が始まります。まず自分の家からは絶対に火を出さないという心構えと「火の用心」を守ることが第一。

特等席から出ぞめ式を見学するこどもたち……加高校グランドで

■　メ　モ　人口……18.728　男……8.759　女……9.969　世帯……5.705　(1月1日現在)

〝幼児の時期の教育がその人の一生を支配する〟

町内の幼児教育施設を活用して こどもの能力をのばしましょう

「わたしに幼児の教育をまかせよ。そうすれば、どのような人間にでもお望みどおりの人間に育ててみせる」

「子どもの知能は、生まれてから四ー五歳までの間に、それから後の十三年間の成長に相当するくらいの成長をする。幼児期において知的刺激にめぐまれないものはもっと成長する可能性があるのにその高さまで達していない。」

「生まれてから六歳になるまでのここぞという大切な時期に、子どもに知的刺激を与えて教育することを怠っているために、何百万人という子どもたちが、とり返しのつかない損失をこうむりつつある。さらにまた、他の何百万人かの子どもたちは、もって生まれたかくれた能力を十分伸ばされないで押し止められている」

これらは、幼児教育の有名な研究者や実践家のことばです。

このごろ「教育の中でいちばんだいじなのは幼児教育だ」といわれるようになってきておりますがそれは知的な能力や性格の基礎の大部分が幼児の時期につくられてしまうことがわかったからです。

つまり、これまでは「自由なあそび」のままに放置されていた幼児時代、これこそがいちばんたいせつな教育の時期であることが、研究や実践の結果はっきりしてきたわけです。

人間の脳は約百四十億の細胞からできていて、これは一生の間ふえもしなければへりもしません。生まれてから後、各細胞から枝の形をした突起が出てきて成長し、互いにからみ合って広がっていきます。この脳細胞から出る突起のからみあいの成長が人の頭のよしあしをきめるのですが、それが八ー九歳でおとなの九五パーセント完成してしまうのです。この突起のからみ合いのようすは、どの人間も同じではなく、生まれたときからどのような刺激＝教育を受けるかによって、各人それぞれ違ったものになるのだと考えられています。

幼児の脳細胞からの突起は、毎日毎日伸び、からみ合っていく、一刻の休みもなくこの営みが頭の中で行なわれている。しかも、その発育がその人の将来を決定してしまうのだ、としたらたいへんなことです。

このように、人間としての一生がきまってしまうともいえる幼児の時期を無計画に、あるいは野放しにしてはなりません。好ましい環境の中で、ここぞという大切な時期に必要な教育を意図的、計画的に施してやらなければなりません。

幼児教育を行なう場の第一は何といっても家庭（両親、とくに母親の役割りが大切）ですが、集団の中で多くの友だちと交わりながら意図的、計画的に行なわれる教育の場が、幼稚園あるいは保育園です。

幼稚園と保育園とのちがいは、表をごらんになればよくわかると思いますが、もっとも大きなちがいは▽幼稚園は、家庭で保護者による家庭教育がなされていることを前提とした学校教育施設であるのに対して▽保育園は、家庭での保育が欠けた乳幼児を、保護者にかわって保育するところです。

このような基本的な性格のちがいから、保育時間や入園資格などにちがいが出てくるのですが、保育内容については、満三歳以上では保育園も幼稚園教育要領に準ずることになっていて、どちらも大差ありません。例をあげますと、両親共働きとか、農家などで、昼間保育に欠けるところは保育園に入れた方がよい、ということになります。

本町には、現在、幼稚園では加治木幼稚園、双葉幼稚園、錦江幼稚園、保育園では加治木保育園、小山田保育園、川野保育園があり地方としては割合いにめぐまれているということができますが、就園率からいいますとまだ十分でなくせっかくのよい施設が十分に活用されていないようです。

人間としての一生をきめるともいわれるたいせつな時期にある三歳から就学するまでの幼児を、町内の幼児教育施設によって、適切な環境の中で、正しくすこやかに伸ばし、りっぱに育てていきたいものです。ご両親の方は、幼児教育がどんなに大切であるかを今一度ご認識あって、家庭での教育を考えると同時に、それぞれのご家庭の事情に応じて、適切な幼児教育施設をご利用くださることを希望いたします。

入園についてのくわしいことは各幼稚園へ、保育園については町福祉課へお問い合わせください。

なお幼児の教育に関するいろいろなご相談は、町教育委員会内にある「町教育相談室」をご利用ください。

町教育相談室のご利用を

――愛するわが子を正しく、すこやかに育て、能力を伸ばすために――

親はだれでもみな、自分の子どもが「よく育ってほしい」という強いねがいをもっています。ところが、子どもをりっぱに育てるということはたいへんむずかしいもので、どんなにすぐれた親であっても、子どもを育てるうえでの悩みを全然もたない人はおそらくいないでしょう。

心配しなくてもよい、ごく小さなことにまで心配するのもわが子なればこそでしょうが、そのよけいな心配が子どもに反映して、かえって子どもを悪い状態にしてしまっている例も少なくありません

今日、学問の進歩によって、頭のよしあし（脳に障害がある場合は別ですが）も、性格もけっして生まれつきだけではなくて、むしろ生まれてから後、どのような刺激＝教育が加えられるかによってきまる面の大きいことがはっきりしてきました。

わたくしたちは、子どもたちをゆがみなく、正しく育て、また、その能力を十分に伸ばしてやる責任を負っています。町教育相談室では、子どもの能力や性格をまっすぐに伸ばしていくにはどうした

（つぎのページ上へ）

（前ページの下から）

らよいか、また、現在ゆがみがあるとすればその原因は何か、そのゆがみをなおすにはどうしたらよいか、親のみなさんといっしょに考え、必要によってはゆがみの治療を行なっています。

「内気で困る」「はずかしがり屋だ」「勉強をしない」「成績がさがった」といったものから「学校へ行きたがらない」とか「ぬすみをする」「家出のくせがある」といったものまで、このましくない性格や行動にはいろいろありますが、これらはすべて何か原因があつてのことで、どんなに叱つてみたところで、その原因となるものを取り除いてやらないことには根から治すことはできません。

長い間のゆがんだ刺激（教育、あるいは環境）は子どもの心をゆがめ、たとえ、現在行動となって表われていなくても、いつ表面に出るかわからないものです。それは犯罪者の恩師や友人がきまったように「「学校時代は実におとなしい子どもでした。あの人がそんなことをするなんて、とても信じられません。」といっていることからも、うかがわれます。

子どもを正しく育てるうえで、いちばんたいせつなものは何といっても親の自信です。この自信を多くの人を相手にしてつけてくれるのが「家庭教育学級」や「父親学級」「母親学級」でありますが「教育相談」は、ひとりひとりを相手にして、それぞれの子どもの実態に即して自信をつけてくれるものだということができるでしょう。

子どもに、こごとをいう前に、あるいは自分ひとりで気をもんでいないで、また、自分より頑丈な子どもを前にオドオドしていないで、今すぐに、教育相談の申し込みをしましょう。教育相談室では専門の先生方が、親身になって悩みをきき、どうすればよいか真剣に考えてくださいます。

教育相談の申し込みは、担任の先生を通じてされた方がよいですが、直接教育委員会へされてもよいです。どうぞ気軽にご利用くださるよう、教育相談室ではおいでをお待ちしております。

幼稚園と保育園との比較

＼	幼　稚　園	保　育　園
法律	学校教育法にもとづく学校教育のための施設	児童福祉法にもとづく児童福祉のための施設
所管	文部省 公立幼稚園は教育委員会、私立幼稚園は地方公共団体	厚生省 公、私立共に福祉事務所
目的	幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。	日々保護者の委託を受けて保育に欠けるその乳児または幼児を保育することを目的とする。
入園の資格	入園資格に制限はない。 ただし、居住地による入園制限を行なう公立幼稚園がある	市町村長は、保護者の労働または疾病等の事由により、その監護すべき乳児または幼児の保育に欠けるところがあると認めるときは、その乳児または幼児を保育所に入所させて保育しなければならない ただし、附近に保育所がない等やむを得ない事由があるときは、この限りでない。
対象年齢	幼稚園に入園することのできるものは、満3歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児	乳児（満1歳に満たない者） 幼児（満1歳から、小学校就学の始期に達するまでの者）
保育時間	1日の教育時間は4時間を標準とする。ただし、幼児の心身の発達の程度や季節に応じて適切に配慮する必要がある。	1日につき8時間を原則とし、その地方における保護者の労働時間その他家庭の状況などを考慮して保育所の長がきめる。
公費補助	幼児への直接補助はほとんどない。ただし、一部地方公共団体が私立幼稚園在園児へ直接補助するところがある。（東京中野区杉並区西宮市など）	保育料への直接補助あり。保護者の経済状況によつて段階がある。
保育者	幼稚園教諭1級および2級検定試験による資格取得はできず単位をとることによる。	保母。検定試験による資格取得もできる。
その他	一学級の幼児数は40人以下を原則とする。	乳児、または満3歳に満たない幼児おおむね6人につき1人以上。満3歳以上の幼児おおむね30人につき1人以上。

明るく正しい選挙推進協議会だより

ことし初めての加治木町明るく正しい選挙推進協議会は一月二十五日、町福祉センターで開き、つぎのことを協議しました。

■町長選挙の反省

▽選挙違反がなかった、今後の選挙にも各人の自覚を促し、選挙違反を追放しょう。

▽下場地区の投票率が低いので、今後の選挙では、これらの地区を重点に有権者への棄権防止を呼びかける。

■統一地方選挙の啓発

七〇年代の自治をひらくために

▽地方自治意識をたかめる運動

▽青年層が積極的に投票に参加する運動

▽きれいな選挙の推進

①選挙のルールなどの周知

自由にできる選挙運動と規制された選挙運動とを住民に周知させる。

②金のかからない選挙

議員、立候補予定者に金を使わせない。選挙に金がかからないようにする。

③自由投票を確保

何ものにも拘束されないで、自分の意志（自主的な判断）で投票できる運動。

■推進委員の辞任

推進協議会長の稲田進さんの辞任を了承、後任に富田武雄さんを選任しました。

264人が新成人に

鹿児島県加治木町　合同の成人式

式は静粛の中に
なごやかなムードで進行
――センターホール

「おとなになったことを自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことしの町成人式は、一月十五日午前十時から福祉センターで行なわれました。

とくに今年は、鹿児島県と加治木町が、いっしょになって式典を行なったもので、会場には新成人二百六十四人（男百三十人、女百三十四人）のうち、百六十人あまりと、県から県知事、県議会議長県教育長、県立図書館長、県社会教育課長など、多数が参列しました。

曽木町長の式辞のあと、金丸知事は「ご成人おめでとう、人間はお互い凡人である。これから先、だれと一諸に歩むかということを考えるべきだ。健康な良き伴呂を求めて経済的な荷物、人間関係の荷物、子どもを育てるなどの荷物を背負って、これからさき五十年の道を堅実に、義務と責任の決まりを守り、どこにいても鹿児島の人間であり日本人である。自分の郷里は加治木町だという誇りを常にもって歩んでもらいたい…」と祝詞を述べ、成人者たちを激励しました。

つぎに新成人（男女代表）による抱負の発表があり、このあと柁城小鼓笛隊（九十人）が入場し、児童代表が「お兄さん、お姉さんご成人おめでとう」と、あいさつし〝若い力〟鹿児島県民の歌〟などを演奏し、最後に成人者や参列者全員で〝加治木町々民歌〟を合唱、児童たちの精いっぱいの演奏にこたえました。

このあと成人者父兄代表として今町の酒匂岩次さんがあいさつしお祝いとお礼を述べ式を閉じました。成人者たちは、センターの玄関前に勢ぞろいし、県知事、町長成人者男女代表の四人で「イヌマキの木」を記念植樹しました。

なお、十二月末現在の鎮守小学校の児童数は、次のとおりです。

▽鎮守小　四十三人　四学級
▽永原小　百四十三人　六学級

一般会計補正予算
九百万円を追加

第五回の一般会計補正予算は、県知事や県議選挙の費用など、総額九百一万二千円が追加され、これで四十五年度一般会計の予算総額は四億九千九百七十九万三千円となり、五億円にあとわずかとなりました。おもな費用は、つぎのとおりです。

▽県知事、県議選挙費二十八万円▽農道補助金百万円▽水産振興費百二十一万円▽道路新設改良費（西別府線）百十一万円▽農業用施設災害復旧費百七万円

□陳情関係
（採択おもなもの）

▼市来原自治会長ほか
「町道、市来原線の一部舗装陳情について」勾配の急な個所を舗装してもらいたい……。

▼竹下部落会長ほか
「そっこうの整備について」部落が低湿地で排水が悪い……。

▼錦江校区婦人会長ほか
「錦江小学校付属幼稚園増設について」これまでの一年保育に、新しく二年保育を増設してほしい

鎮守小ついに閉校
四月から永原小へ統合

12月議会から

十二月の定例町議会は、十二月十九日から二十四日までの六日間町議事堂で開かれ、鎮守小学校の統廃合にともなう「町立学校の設置に関する条例」の一部改正など四つの議案を審議可決、陳情四件を採択しました。おもなものは、次のとおりです。

□町立学校、学有林設置条例の一部を改正

就学児童の減少によって、昭和四十六年四月から、辺川にある鎮守小学校は、西別府の永原小学校に統合されることになりました。

町は先に学校統合審議会を設けて、町内の学校統合問題について慎重に協議検討してもらい、その答申に基づいて統合を決めるための議案を提出したものです。

このため二つの条例の中にある「鎮守小学校」や「所在置」などの字句を削除して、四月から正式に閉校が決まりました。

鎮守小学校の由来を〝加治木郷土誌〟で見ますと「当校は大字辺川にある。明治十一年一月、もと庄屋の事務所を校舎にあてて鎮守小学校と命名した」とあります。

開校以来、九十三年と三か月で長年、地区民が通い学んだ鎮守小学校の名称が消えるわけです。なんとしても、さびしいことです。

二月の納税　保険税（第四期分）

私の抱負

成人式から

壱岐良平
（西諏訪）

私は、この二十年間、両親、恩師それに数多くの先輩たちによって支えられ、ここまで成長してきました。

きょう、ここにご列席の父兄のかたがたも、この二十年間の苦労を思いおこしておられることでしょう。その恩に対し、わたくしども新しく成人になった者一同、心から感謝申しあげている次第です

過去の二十年間は、支えられてきた時代でした。しかし、これからは自己自身の力で生きぬいていかなければなりません。社会の荒波にもまれ、見えない壁につき当たり、また、人生のどん底に陥り悩み、悲しむ場にも数多くつきあたると思いますが、その苦難に耐え、打ち勝ち、その苦境から自力で立ちあがることにより、人間として磨かれ、良き社会人として成長していくものと信じます。

そのためには、確固たる信念と強い意志力が必要だと思います。ある時には世代、思想の違いから親や先輩と意見の衝突することもあるでしょう。しかし、他人の意見は尊重しながらも、安易な妥協に甘んずることなく常に、真実を求め、強く正しく生きぬいていきたいと思います。

私は、机の前に座右の銘としてフランスの小説家プルーストの大河小説〝失われた時を求めて〟の中の第七編…見出されし時：からそれは「幸福は肉体の健康によろしい、だが精神力を発達させるのは、心の悲しみである…」という引用文を、はっています。

いまの私は、よく友だちから以前と全く変わった…といわれますそれは私自身、ある心の悲しみを経験したこと、また、感覚の違いから生じる衝突（例えばファッション）それに強い反抗の姿をはっきりと現わしている事に起因するのでしょう。

心の悲しみを経験し、その悲しみをのりこえる、たくましい情熱と根性とによって、よりよき人間形成もできていくのではないでしょうか。

人生は二度とくり返すことはできない。私は既製のおとなには、なりたくない。一日一日に全力をかたむけ、若人の新しい感覚と情熱をもって社会の荒波をのりこえ幾多の困難に打ち勝っていきたいと思います。

私たちには、二十一世紀への輝かしい未来に向かつて郷土を、社会を築きあげていく大きな期待が寄せられています。

私どもは学生として、あるいは社会人として必ずしも優等生になる必要はない。平凡な人間で結構だと思います。ただ、今後の人生の中でおこる困難を避けようとする安易な考え方は絶対に捨て、どんな小さなことでも、生命をかけて取り組み、尊い人生を大切に送りたいものです。

先輩諸兄の助言、指導はいただくものの、あくまで自分の意志に従つて主体的に行動し、自己反省していきたい。そして一生に、ほんの一時でもよい、天上の星のように、美しく輝ける時を人生に刻みたいと思います。

きょう皆様からいただいた激励のことばを胸に刻み、社会人として力強く、第一歩を踏み出します

本日は、ほんとうにありがとうございました。

木村直子
（岩原東）

成人の日を迎え、こうして新成人としての抱負を述べることになってみて、改めて成人式とは何かしら…と考えてみました。

わかっているようでいて、その実、何もわかっていない頼りない自分に気がつきました。しかし、過去を振り返り、また現在を見つめ、将来を考えるという意味で、人生のとひつの区切りとして成人式をとらえることは、本当に意義あることだと思います。

よくよく考えてみますと、これまでのわたくしは、社会のもろもろのでき事に対して、時には猛烈に感激してみたり、時には憤然としたこともあります。けれども、それもその場かぎりの、何の問題意識を持つという事もない。ただ単に、その時々の時間を物理的に消化して、生きているこの現実を安易に過ごしてきたようです。ただ一度きりの、この人生の何分の一かにあたる二十年間には、わたくしなりに大なり、小なりの波がございました。それも結果は問わずにいちばん楽な方法で、きりぬけてきたと思うのです。

このように、いろいろ思い起こすにつれて、いやでも自分の惰性が目につき、きょうのこの成人の日を契機にして、自分自身の生き方について、考えなおさなくてはと思います。

抱負とまではいかなくても、わたくしなりに次のような事を、自分にいいきかせた次第です。

あの美しい桜島が、加治木と鹿児島では、その姿が違って見えるように、人それぞれに物の見方、考え方が違うのは当然だと思います。もの事は、あらゆる角度から検討してみる必要があり、あらゆる人の意見、心情を謙虚に聞くことです。そして昭和元禄と形容されるように、はなやかな反面、公害、交通事故など不安が続出し、人間として最も尊い清らかな心を失いがちな混沌とした世の中にあって、自分は絶対に正しいのだという考えを捨てて、本当に何が正しいのかを常に考え、強く正しく生きたいと思います。

そしてまた、社会の最少単位である家庭において、賢い女性として、よき家庭人となるよう努力したいと思います。そうする事で、社会の一員としての潤滑油の役目を果たす事ができるのだと思うのです。また、人間として大切な事を、いいかげんに、はぐらかしてしまわずに、自分の生きる道を自分の足で踏みしめて歩きたいと思います。わたくしは、このように平凡な中にも美しく、まっすぐな人生を送りたいと考えます。

最後に、ここまで成長させてくださった両親に心から感謝し、このように盛大な成人式をあげてくださった皆様に、心からお礼を申しあげます。本日は本当にありがとうございました。

四十五年度上半期の

財政事情の公表から

四月から九月までの〝町の台所〟

昭和四十五年度、上半期（四月から九月まで）の町の財政事情がこのほど公表されました。これは地方自治法や町の条例などによって町民に公表するものです。

本紙では、おもな部分について掲載しました。加治木町の台所がどのようにまかなわれているか、あるいは一年間のやりくり町の借金など、この機会にちょっと目を通していただきたいものです。

□上半期の予算

昭和四十五年度の一般会計当初予算の総額は、前にお知らせしたとおり四億四千六百五十九万三千円でしたが、九月までの間に三回補正を行ない、約四千万円を追加して四億八千七百七十三万四千円となっています。

□収入と支出

上半期の収入および支出の状況ですが、収入済額は二億六千百万円で予算に対して五三・五パーセントの収入率です。また支出済額は一億七千百万円で三五パーセントの支出率となっています。

□歳入のしくみ

予算のうち歳入（収入）は、町の一年間をまかなうための貴重な財源です。この財源は①自主財源（町自体でまかなうお金）と②依存財源（国や県などからのお金）の二つからなっています。

▽自主財源　町自体でまかなうお金は、収入予算の三八・七パーセントを占めており、うちわけは、みなさんがたや会社などから納めていただく町税をトップに、諸収入、使用料および手数料、その他となっています。

▽依存財源　国や県などからもってくるお金で、収入予算の半分以上六一・三パーセントを占めています。

このことは加治木町の一年間は町自体で四、よそからの金六の割合いでまかなわれ、また、いろんな事業が行なわれていると、いうことです。

□町民の負担

収入の約四分の一を占める町税は、上半期で一億二千二百万円あまりとなっています。この額から町民が、どのくらいの負担をしているか、を計算してみますと、次のようになります。

○一人当たり　六千六百三十円

○一世帯当たり　二万二千三百三十六円

□歳出（支出）

支出するお金のうちわけは、人件費が三〇パーセントを占め、次が普通建設事業費の二一パーセント、あとは物件費、失業対策費はかと、なっています。

○普通建設事業費のうちわけ

錦江小屋体　一千八百四十万円
公営住宅　三千九百六十万円
町道改良　一千三百万円
都市計画　四百九十万円
幼稚園建設　四百十万円
県営事業負担金　七百五十万円
ごみ焼却場の建設負担金　一千七百二十万円

などが、おもなものです。

□町債（町の借金）

町が大きな事業をするために、多くのお金が必要となります。そこで大蔵省や郵政省などから借りて、これらの事業にあてています

上半期の借入額は二千八百二十万円ですが、年度末（四十六年三月）には借入の総額は二億六千二百万円になる見込みのようです。

上半期に借りた二千八百二十万円のうちわけは、つぎのような事業をするために借りたものです。

春日団地建設　千五百八十万円
錦江小屋体〃　八百四十万円
幼稚園〃　百万円
西別府道路整備　百万円
港湾修理負担金　百万円
消防車購入　百万円

□十一月の決算議会から

六百二十万円の黒字

四十四年度の決算

11月議会から

昭和四十四年度の決算を審議する町議会は、昨年の十一月十六日から開かれ、二十四日に認定されました。

決算額は収入額五億九百四万八千円。支出額五億二百八十四万八千円で、その差額六百二十一万円の黒字決算となりました。

□四十四年度の税負担ひとり六千百三十円

自主財源の約六〇パーセントに当たる町税は一億一千三百三十三万五千円の収入となっています。四十四年度の町民の税負担額は一世帯二万六百六十六円、ひとり当たり六千百三十四円となりますが会社、事業所などの分も含まれているので、実際の負担額は、まださがることになります。

□おもな事業

四十四年度に行なった、おもな事業は次のとおりです。

▽福祉センター建設費（継続分）　七千五百四十六万円
▽竜中屋体建設　一千三百七十二万円
▽春日団地建設（三十二戸）　四千二十四万円
▽西別府道路改良　八百九十六万円
▽県営事業負担金　六百六十四万円
▽農道新設改良　六百十七万円
▽災害復旧　二千百四万円
▽失業対策　三千四百六十万円

□公有財産

町が四十四年度中に取得した、おもな財産は次のとおりです。

▽土地…公営住宅、福祉センター敷地ほか。
▽建物…公営住宅三十二戸、福祉センター、竜中屋体など

昭和四十四年度末の現在高は、土地が約三十五万二千坪、建物で約一万三千坪、その他車両台数二十八台、債権として育英、就職仕渡金五百十二万二千円、財政調整基金千三百八十五万五千円の決算額となっています。

団員160人 堂々のパレード

町消防団出ぞめ式

分団ごとに町長の観閲をうける団員

恒例の町消防団、出ぞめ式は一月十一日午前十時から加治木高校グラウンドで行なわれました。

先ず、式に先立つて午前九時から国分自衛隊の音楽隊を先頭に、町消防団員総勢百六十二人、消防車、積込車など九台が列を連ねて堂々の市中パレードを行ない、無火災と町内の安全を、町民に呼びかけました。

式にうつり、消防ポンプ操法などのあと、出ぞめ式の華（はな）ともいえる一斉放水演習が行なわれ、宙天に十数条の水柱が立ち、ゆるやかに弧をえがく水しぶきに虹をかもしだすなど、整然として鮮やかな演出でした。

表彰では、人命救助の馬場輝夫さんなど四十六人と三つの団体がそれぞれ表彰をうけました。

なお、曽木町長は団員を前にして、次のように式辞を述べました

「団員諸君が堂々、かつ整然と行動し、力強く感じた。昨年中をかえりみて、多数の風水害があり、夜も昼も注意して町民に防火思想を鼓舞したにもかかわらず数回の火事、不注意による失火が発生した。だが、団員の必至の努力によつて類焼を免かれたことは、よろこばしいことだ。

下場地区では事業所や住宅がふえる一方で、ちょつとの火の不始末による大火も多く予想される現状で、住民は自己の財産と生命を火災から守るため、消防団に依存する考えも多い。

四月から常設消防について、いよいよ四カ町で計画、具体化しようとしている。

団員たちと側面的に、あるいは中心となつて相互協力、提携して災害を最少限度にくいとめるために努力したい。また町内の道路事情も復雑になり、交通事故に対処するため、救急業務といつしょに話し合いを進めている。

これからも災害を最少限度にとどめるなどの努力を顧い、ご苦労さまですが、町民の期待と信頼にこたえるため、ことしもがんばってはしい」

当日、表彰をうけたかたは、次のとおりです。

□姶良、伊佐支部長表彰

東光義　福園克美　芋ケ迫正男
大園譲　吉村清視　吉村虎男

□無火災地区分団表彰

中野分団（一年間）

□町長表彰

山口政人　桐原広志　岩田辰二
中原清幸　江口杉春　石川勝光
上別府満幸　岩穴口治男　大宮路五男

□永年勤続表彰

〔十年〕
郡山貢　犬童政武　大宮路五男
杉田秀清　向江素　宮内時雄
石原明

〔十五年〕
山元透　川床利夫

〔二十年〕
福丸早苗　有川恭雄　福園克美
大園譲　畠中博　小宮路静哉
上猶清高　花牟礼幸哉

〔二十五年〕
向江利春　松尾利光

□退職消防団員へ感謝状

故中野実幸　松尾直　寺師幸男

□一般協力者表彰

会社員　馬場輝雄（人命救助）

□一般協力者感謝状

政所光子（初期消火協力者）
大園増美（分団運営協力者）

□団体協力者感謝状

渋谷正夫（下東木部落代表）

□消防団長表彰

郡山貢　松元美憲　東川内忠司
西村勝　中野次男

□町消防後援会長感謝状

六反正（消防車庫土地提供）
森木政雄（自衛消防操法優勝部落＝代表）久木田しず子（火災予防啓蒙＝上嶽婦人会代表）

寄付を続けて十年

目的を果たした元助役の岩沢藤夫さん

町内、城の岩沢藤夫さん（八十一）は、昭和三十六年五月、町助役を退職するのを機会に、町の未亡人会にこれから十年間寄付することをひそかに決意、そのとしの一万円を皮切りに毎年、歳の暮れに寄付を続けていましたが、このほど、やつと念願の最終目的を果たしました。

ちゃのんのばなし

岩沢さんは、ご承知のとおり昭和二十四年から三期十二年の間、戦後の荒廃した加治木町の復興町政の発展につとめたかたです

寄付の動機について、「当時未亡人会も資金難で、町にもいろいろ相談をうけたが、そのころ町も金に困つている時代で、未亡人会に援助する金もなかつた。会員の中に養豚で生活する人もいたが資金面で相当、気苦労していたようだ。私も養豚は好きで、当時も勤めのかたわら飼つていたので、その気苦労も十分知り過ぎていた。そこで在職中は何の援助もできなかつたから、退職を機会に、これらの人たちの生活資金のたしになればと、寄付することにした。元気なうちに目的の責を果たせてうれしい…」と、長い十年を回顧しながら話していました。

一方、町未亡人会長の中山貴美さんは「毎年、貴いご寄付をいただいて会員一同、深く感謝しています。会員三百三十人のお互いの生活資金として、有効に活用させていただきます…」と、感謝していました。

八十一歳の岩沢さんは、朝早くから豚や牛などの飼育のかたわら畑五反歩を耕作するなど、農事にはげんでいます。

「歩くのと、土いじりが何よりも好きだ……」という岩沢さんは、きょうも畑でカンランの手入れに余念がないようです。

古着をドッサリ オレンジ学園に贈る

町婦人会（会長、野元道子）では、助け合い運動を年間行事の一つとして計画し、このためのいろいろな活動を婦人会員二千百人が協力して行なっています。

そのなかで、福山町にある重症心身障害児の収容施設〝オレンジ学園〟にオムツとしての古着を贈る運動は、今回で四年めを数え、会員の善意は回を追うごとにふえています。寄せられた包みの中には、こどもの洋服や新しいサラシの反物など、数点が入っていました。

このほど、車で受取りに来た同園の事務局長さんは「現在、百九十人あまりの重症児のお世話をしています。毎日五、六千枚ものオムツが必要です。洗たくの回数も多いのでオムツのいたみも早いようです。毎年加治木町の婦人会のみなさんや、ほうぼうからいただくことができて大助りです」と感激していました。

会員から寄せられた善意の古着は、自動車（ライトバン）二台分もの量になり、大きな包みを運ぶ野元さんら幹部と、同園の職員は積み込みに大わらわでした。

大きな包みの積み込みに大わらわ

6頭とも入賞

第20回県肉畜共進会

昨年末に鹿児島市郡元町にある鹿児島家畜市場で行なわれた、第二十回鹿児島県肉畜共進会に、本町から六頭の牛が出品されましたが、出品頭数の全部が、上位入賞しました。成績は次のとおりです

□牝牛の部
二等賞　下枝三志（西ノ原）

□牡牛の部
優等賞　今西　実（楠園）
一等賞　下枝輝男（西ノ原）

□去勢の部
一等賞　吉薗政則（楠園）
〃　田丸隆雄（〃）
〃　市野親（上東木）

香典返しを寄付

町社会福祉協議会へ

〃〃〃〃〃〃

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額　ご遺族　故人
五千円　須崎　松田シズ（夫義行）
五千円　桃木野　後藤正徳（父正市）
三千円　下嶽　前畠春美（母スエ）
五千円　岩原　内野博（母サト）
三千円　垂ノ口　山下アイ（夫一）
二千円　赤谷　山口純男（母クサ）
五千円　菖蒲谷　福ケ迫貢（父国人）
一万円　新中戎　倉男（父敬次郎）
一万円　中野　坂元ヒデ（夫豊志）
一万円　小田倉　宮脇一哉（母チカ）
五千円　茶腕屋　坂部イキ（夫操）

育英資金へ

五千円　須崎　松田シズ（夫義行）
五千円　茶腕屋　坂部イキ（夫操）

○一月二十日までの、ご寄付を掲載しました。

随想

特別老人ホーム完成に思う

曽木隆輝

このほど高井田の宇曽貫滝の近くに、望岳園という名の特別老人ホームが完成して、ベッド数五十で寝たきり老人のかたがたが、生活されることになった。

戦後、日本人の寿命が伸びたことはうれしい。が起居も不自由で時には家族の邪魔者扱いにされることもあり、お気の毒な境遇におられる向きが多くなったことも事実だ。

私は毎年九月十五日敬老の日に町内の高齢者の慰問にあがるが九月といっても暑い折から、しめきった納戸の隅に身動きもできずあえいでいるお年寄りをお見受けして、ご本人も苦しいだろうが、家族のかたも大へんだなーと思うことがある。

こんなかたが余生をもっと楽に過ごされる施設を、ぜひほしいと念願している時に、鹿児島市の高田内科の院長さんから相談をうけたので、心から賛意を表し、これが実現のため、県や厚生省はもちろん、町議会や地主さんがたに、ご相談して約二年余りかかってできあがった。恐らく九州一で日本でも二、三番めという施設だろう。

高田先生の発想で、全居室の日当たりを第一主義にして玄関や事務室は二のつぎに考え、全館冷暖房で、まるで一流のホテルといった感じ。開館前から視察者は、ひっきりなしの形だ。入園希望者も何倍にものぼっている由。

社会福祉とは、しあわせの少ない人に暖かい手、暖かい思いやりをしてあげることだが、その幾分かがここに用意されたことはうれしい。私は新年度の予算編成の中で老人医療費と乳幼児のそれについて、何とか糸口でも見いだそうと努力している。当初から完全なものは望めそうにないにしても……。

幼児教育や保育の問題も、いろいろ取り沙汰されているが、町内の全幼児を何らかの形で、どこかで保育されるよう関係者みんなで考えるとともに、これら児童をふくめ町民の全部が健康で、それぞれの生活を楽しんでいただけるように念願しながら、私はいま新年度の構想にめぐりの悪い頭をひねっている。